

# 柳津町誌(上巻)総説編 目次

題 字 柳津町長 春日源一

見返し図 「奥州会津柳津」版画

押絵(上・下巻) 齋藤 清画伯

口 絵 (信 仰) 虚空蔵景観 飯谷神室 六道図絵

(古代史) 火焰式土器 複式炉

(民俗) 七日堂裸参り 柳津霊祭 おぼ抱き観音 勝軍地蔵

(文化財) 奥之院弁天堂 魚淵の魚群 奥之院七色楓 モリアオガエル

聖徳太子像

(自然景観) ツムジクラ滝 博士山の遠望 不動滝 柳津町地形模型

(文化景観) 柳津温泉街 西山温泉街 漆峠林道 軽井沢銀山の煙突

中心部航空写真

発刊にあたって 柳津町長 春日源一

編集にあたって 柳津町教育長 内田伊佐雄

## 第一章 風土

第一節 地理的位置と風土	一
第二節 地形と風土	二
第三節 雪と風土	五
第四節 地名と風土	一二

## 第二章 歴史

第一節 原始	二一
第二節 古代	四四
第三節 中世	五四
第四節 近世	六八
一、蒲生・加藤氏時代	六八
二、保科氏（松平氏）時代	七〇
第五節 近代	七八
一、明治時代	七八
二、大正時代	九七
第六節 現代	一〇五
昭和時代	一〇五

## 第三章 民俗

第一節 年中行事	一二三
第二節 民間信仰	一二九
一、山の神講	一二九
二、観音講	一三〇
三、天神講	一三〇
四、厄年	一三一
五、守り本尊	一三一
六、仁王門に草鞋を奉納する	一三一
七、七福神	一三三
八、山岳信仰	一三四
九、二十三夜塔	一三五
一〇、庚申講	一三六
二、巳待塔	一三六
三、古峯ヶ原講	一三六
三、山ノ神講	一三七
四、オシメサマ	一三七
五、オワカサマ	一三七
六、屋敷神	一三八
七、建舞飾りと女性	一三八

一、民間信仰碑	一三八
第三節 人の一生	一五三
第四節 食習俗	一六一
第五節 服制習俗	一七〇
第六節 芸能	一七四
一、柳津歌舞伎	一七四
二、久保田地芝居	一七七
三、里神楽	一七九
四、櫓踊	一八〇
五、会津大津絵	一八三
六、会津萬歳	一八三
七、民謡	一八五
第七節 子どもの遊び	一八七
第八節 方言・訛語	一九五
《あ》の部	一九五
《い》の部	一九六
《う》の部	一九七
《え》の部	一九八
《お》の部	一九八
《か》の部	一九九
《き》の部	二〇一
《く》の部	二〇二

《け》の部	二〇三
《こ》の部	二〇四
《さ》の部	二〇五
《し》の部	二〇五
《す》の部	二〇六
《せ》の部	二〇七
《そ》の部	二〇七
《た》の部	二〇八
《ち》の部	二〇八
《つ》の部	二〇九
《て》の部	二〇九
《と》の部	二一〇
《な》の部	二一一
《に》の部	二一一
《ぬ》の部	二一一
《ね》の部	二一一
《の》の部	二一二
《は》の部	二二三
《ひ》の部	二二三
《ふ》の部	二二四
《へ》の部	二二五
《ほ》の部	二二六

《ま》の部	二二六	。奥の院の大力お坊さん	二二八
《み》の部	二二七	。魚淵と蒲生秀行の毒流し	二二九
《む》の部	二二八	。一貫清水	二三〇
《め》の部	二二八	。白沼のおこり	二三〇
《も》の部	二二八	。白狐さん	二三一
《や》の部	二二九	。飯谷神社と野老沢	二三一
《ゆ》の部	二三〇	。反四郎坂と白兔	二三一
《よ》の部	二三〇	。麻生の力もち 冠木無	二三一
《ら》の部	二三一	。安久津の閻魔様	二三一
《り》の部	二三一	。十文字原と姫が淵	二三三
《れ》の部	二三一	。猿戻城と牛越	二三四
《ろ》の部	二三一	。上人塚	二三四
《わ》の部	二三一	。御殿場	二三四
《ん》の部	二三二	。おじゅんの幽霊	二三五
第九節 伝説・伝承	二三二	。琵琶首出入沼の主	二三七
。千石太郎のはなし	二三二	。中村の蛇桜	二三八
。石生と石神	二三五	。中村の藤助清水	二三九
。只見川をまたいだ大男	二三五	。おぼ抱き観音	二三九
。泣き坂とぎとうころばし	二三六	。かみなりの婿になった孫左衛門	二四二
。寺家町の大清水	二三六		
。岩坂町のお稲荷様	二三六		
。瑞光山のおこり	二二七		

## 第四章 政治・社会

第一節 行政機関の変遷……………	二四三
第二節 人口……………	二六三
第三節 社会福祉……………	二六七
第四節 選挙……………	二七〇
第五節 警備……………	二七〇
第六節 公営住宅……………	二七五
第七節 鉄道・通信……………	二七六
第八節 出先機関……………	二八四
第九節 その他……………	二八六
第十節 災害史……………	二八六

## 第五章 交通・通信

第一節 古代の交通……………	三〇九
第二節 主要交通路の変遷と改修……………	三二二
一、越後街道……………	三二二
二、沼田街道……………	三二六
三、銀山峠街道……………	三五〇
四、鉄道・バス……………	三五四

第三節 通信……………	三五九
-------------	-----

## 第六章 開発

第一節 鉱山開発史……………	三六三
一、軽井沢銀山……………	三六三
二、姥沢銅山……………	三七五
三、黒沢千石沢鉱山……………	三七八
四、五疊敷白土……………	三七九
五、湯八木沢パーライト鉱……………	三八〇
第二節 電源開発史……………	三八一
只見川電源開発と柳津発電所……………	三八一
第三節 温泉開発史……………	三八六
一、神ノ湯温泉……………	三八七
二、下の湯温泉……………	三九一
三、荒湯温泉……………	三九三
四、滝の湯温泉……………	三九五
五、老沢温泉……………	三九六
六、中の湯温泉……………	三九七
七、新湯温泉……………	三九八
八、智仁荘……………	四〇一
九、五疊敷共同温泉……………	四〇二

一〇、砂子原温泉……………四〇二  
 一一、柳津温泉……………四〇四

第七章 観光

第一節 虚空蔵信仰と観光……………四〇九  
 一、福満虚空蔵の縁起と信仰……………四〇九  
 二、来柳名士録……………四二七  
 第二節 奥之院の創立と弁天堂……………四三三  
 第三節 観光地理と柳津……………四三九  
 一、序 説……………四三九  
 二、観光資源としての温泉……………四四二  
 三、観光資源としての自然景……………四四四  
 四、観光資源としての文化景……………四五〇  
 五、今後の課題……………四五五

第八章 教育・文化

第一節 学校教育……………四五七

一、明治以前の教育と私塾……………四七五  
 二、学校の沿革……………四六四  
 第二節 文化団体……………四七六

第九章 宗 教

第一節 神 社……………四八九  
 一、柳津地区……………四八九  
 二、西山地区……………五三一  
 第二節 寺 院……………五六七  
 一、柳津地区……………五六七  
 二、西山地区……………五八九  
 第三節 円蔵寺……………六一九  
 虚空蔵堂……………六一九  
 奥之院……………六五三  
 第四節 わが町の修験道……………六五五  
 第五節 新興宗教・天理教……………六五九

※附 柳津町歴史年表……………六六一

## 凡 例

- 一、本誌は柳津町・西山村合併二十週年記念行事の一環として出版する。
  - 一、調査は現地に赴き、古文書・仏像・神社・遺跡・文化遺産その他各般の資料を広く見聞して委員会で吟味し記述した。まだ多くの資料があると思われるが、時間的制約があつて手の届かない点もあつた。
  - 一、文章はなるべく平易なものとしたが、引用文は原文のまま掲げておいた。
  - 一、調査資料を全部あげたが、紙数の制限もあり相当割愛した。
  - 一、写真・図版等はなるべく地域の均斉を考えたが一部欠く所もある。
  - 一、本誌のため調査の際の文化財所有者名をあげて協力に対する感謝の意を表わした。
  - 一、資料は多量なので別冊資料集の発行を望みたい。
  - 一、柳津町教育委員会の昭和三十五年までの資料は十分使用させてもらつた。
  - 一、資料は昭和五十年五月一日現在までを用いた。
- 
- 一、本誌の章節は各委員が分担して調査執筆したが、共同調査を重ねたものもあるので、分担者を特に明記しなかつた。
  - 一、章節の分類構成は厳密な学問的分類でなく町民の親しみ易く、読み易いようにした。
  - 一、内容は証拠によつて挙げているが、推考されるもの、伝承されているものも挙げた。
  - 一、伝説・民話は町内に伝承されているものなるべく多く採りあげて、祖先の信仰・願望等を知ってもらうようにつとめた。
  - 一、記事で重複している点もあるが、読者の便益になると思われるものは重複をあえてさげなかつた。
  - 一、町内には旧家・名家が非常に多いので、いちいち挙げるべきでなかつたが、内容を理解するのに関連ある必要なものは一部あげた。
  - 一、紀元（ ）の中は西暦紀元を用い、尺貫法とメートル法を併用したところもある。
  - 一、円藏寺水野住職が病臥中のため、調査のための接触が十分行われなかつたことは残念であり、今後の調査に期待する。
  - 一、本誌は町の歴史であるが、多分に地誌的内容が含まれているので「柳津町誌」とした。